

## まえがき

川越市立図書館（現在の川越市立中央図書館）が三久保町に新しい図書館として開館したのは、昭和59年10月のことです。その後、平成7年1月には霞ヶ関南分室が開設され、引き続き、平成14年4月に西図書館、同年7月に川越駅東口図書館、平成20年5月に高階図書館を新設しました。現在は、市内4館1分室が連携し、多様な図書館サービスを展開しています。まだまだ十分とはいえませんが、多くの市民の方が、図書館サービスを身近で手軽に利用できるようになりました。

川越の図書館の歴史を振り返れば、当初は文化を愛する人々の善意と情熱によって、私立の図書館として大正4年（1915）5月に誕生しました。その後、この私立図書館の資料等を継承しつつ、大正7年（1918）に川越町立図書館として埼玉県知事の認可を受け、公立図書館としてのスタートを切りました。

このように、平成27年（2015）は、図書館という施設が川越に誕生して100年となります。そこで、この度、川越に図書館が生まれて100年のあゆみを振り返って、パンフレットを作成することとしました。

長い歴史の中で、図書館は様々な事業を行ってまいりましたが、近年は、時代に即した図書館事業として、本を通して赤ちゃんとのふれあいを図ることを目的としたブックスタートや障害者向けデジタル録音図書の製作・貸出しなど、図書の魅力を多方面に伝える事業を充実させています。また、インターネット等の普及に合わせて、簡単に蔵書検索や予約等ができるようにするなど、サービスの内容も進化させ続けています。

市民の皆様の多岐にわたるニーズに応え、市民生活をサポートする施設として、また、今後さらに、利用しやすい魅力的な施設として、充実・発展させてまいりたいと考えています。

より一層の御理解と御支援をお願い申し上げます。

平成27年10月1日

川越市立中央図書館

もくじ

●まえがき	1
●もくじ ●私立川越図書館創立者 安部立郎	2
●川越に図書館が生まれて100年 あゆみ (年表)	3~4
●川越市立図書館 (現中央図書館) の建設にあたって	5
●配本所・移動図書館の思い出	6
●川越市立図書館の貴重な資料	7
●読書のバリアフリー 「音声版 山と溪谷」の製作を通じて	8
●楽しいブックトーク (学級訪問)	9
●ブックスタートで“すべての赤ちゃんに絵本を！”	10

私立川越図書館創立者 あんべ たつろう 安部 立郎 (1886-1924)

安部立郎は、明治19年2月6日、川越町に生まれました。川越中学校 (現在の埼玉県立川越高等学校) 在学時より、図書館建設に情熱を持ち、私立川越図書館の誕生に最も力を尽くした人物として、川越の図書館史にその名を残しています。

私立川越図書館開館時は、初代理事長の役をつとめ、私立図書館が町立図書館として認可された時は、初代司書に就任しました。

その後、大正11年の市制施行にともない、町立図書館が市立図書館となって間もなく、司書を辞任して市議員となりましたが、大正13年2月29日、病気のため急逝しました。

現在の中央図書館には、郷土川越に関連した資料がたくさんあります。これは、郷土資料の収集・保存に尽力した先人たちの努力の成果によるものといえますが、その基盤をつくったのが安部とその同志たちです。私立川越図書館創始期に、江戸時代の川越の歴史、地誌資料の写本を集め、また収集できない資料は自ら筆写し、各写本間の異同を比較校合するなど、先駆的な事業を行いました。安部立郎校注の『川越年代記・三芳野砂子』『川越素麺』『三芳野名勝図会』は、この時期に、図書館版川越叢書として刊行されたものです。

